



第2回基礎体験活動連絡会議がありました

第2回基礎体験活動連絡会議が、2月20日（火）に行われました。

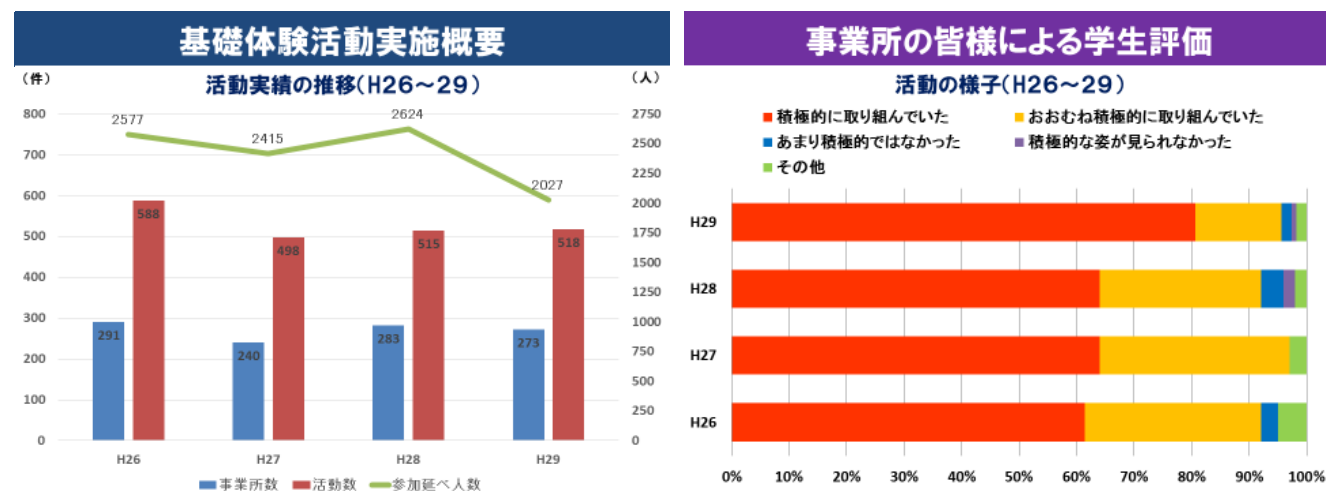
この基礎体験活動連絡会議は、年度初めの4月と年度終わりの2月に行われ、今年度の活動状況と来年度の方向性について理解いただくとともに、より充実した活動となるように成果や課題を話し合います。

今年度の基礎体験活動には、234もの主催者の方から申し込みをいただきました。今回の連絡会議には47の主催者の方々に来ていただき、大学側から基礎体験活動の概要について伝え、活動先での学生の様子について情報交換・情報共有しました。

今年度の基礎体験活動は、昨年度までと比較したところ、申し込んでいただいた事業所の数と活動数に大きな変化はありませんでした。しかしながら、参加する学生数は約2割減少しているという結果になりました。これは、今年度より教育学部の入学定員が、170名から130名に減少したことが原因と考えられます。来年度以降も入学定員は130名となるので、大学側としても基礎体験活動に参加する学生数が、例年通りを維持できるように体験の有意義性を学生に伝えていきたいと考えています。

また、事業所の皆様による学生評価については、昨年度までとほぼ同じで、肯定的な評価は90%を超え、概ね良好であることが分かりました。特に、今年度は「積極的に取り組んでいた」という評価が80%近くあり、学生の基礎体験活動に真摯に取り組んでいる姿勢が分かりました。

今後も、大学側と事業所の方々と手を取り合って、豊かな人間性と優れた教育実践力を兼ね備えた教師を育成するという観点で、基礎体験活動の充実を図っていききたいと思います。



受け入れ事業所の方々の声から…

第2回基礎体験活動連絡会議に向けて、受け入れ事業所の方々に今年度の活動を振り返ってもらいアンケートをお願いしました。一部ではありますが、受け入れ事業所の方々の声をご覧ください。

◎活動中の学生の様子について

- ・朝から夕方まで長時間の活動でしたが最後まで積極的にまじめに取り組む姿が見られた。
- ・予定した活動日には時間厳守で、特別の理由がない限り皆勤で、積極的に取り組まれていた。
- ・全員が活動対象の子どもの心を思い、子どもが理解できるよう一生懸命に取り組まれている。
- ・体験活動の経験を教職に生かそうとする前向きな姿勢が感じられた。
- ・積極的に活動に参加し、自分でできることを考えて動いており好感がもてた。
- ・子どもたちに進んで声かけをしてもらいスムーズに活動を進めることができた。
- ・当施設の来園者は子どもだけでなく大人も多いが、積極的に来園者とコミュニケーションを取ろうとする学生が多かった。

△個々で評価が異なり、指示待ちの場面も多く見られたので、積極的に動く学生さんが望ましい。

△募集用紙に活動日を記載しているのに、ほとんど都合が合わず参加回数が少ない学生さんがいらして少し残念だった。熱心に取り組む学生さんとの差が大きかったように思う。

◎学生の受け入れに対する考え方や学生への指導上でお気づきのこと

- ・将来教員を目指しておられる方が多いので、子どもとたくさん関われるようにしている。
- ・事業の中で出来ることを確実にやり、自分の力を高めてほしいと願って学生を受け入れている。
- ・地元出身の学生にとって、地元とのつながりを持続けてもらいたいと考えている。
- ・指導に関する意見交換を重ねることで、相互の立場を理解し合うことに努めた結果、学生さんの変容にも気付くことができた。
- ・主体的に取り組んでもらうため学生企画事業を実施している。活動後には振り返りの場を持つようにしている。また事前の研修を行い、指導と学びの場となるように工夫している。
- ・普段、こちらが気付かない点も、若者の視点で気付かされることがありこちらも勉強になります。
- ・分からないことは自ら聞いてきたり、空いた時間には自分で仕事を見つけたりと積極的に取り組んでおられた。いつも10-15分前には出てきておられ、とても礼儀正しく一生懸命で好印象でした。

△直前に欠席連絡があることがあり、学生によっては連絡なしで欠席する場合があったので困った。

△欠席の連絡のない学生や直前にキャンセルする学生に対しては、こちらから指導をしました。

△受け身の学生さんが多いので、積極的な質問や意見が出るように私たちも働き掛けたいと思う。積極的に関わることで、子ども達も一層心を開いてくれるのではないかと考える。

△体調不良などで欠席となることが受け入れ側としては心配ごとの一つですので体調管理をしっかりとお願いしたい。